

【平成23年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 上板橋第二 中学校

【国語】

<p>■生徒の状況</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真面目に授業に取り組む姿勢があり、ノートなどはきちんと取れる生徒が多い。 ・正確に文章を読み取り、その文章に対して自分なりの考えをもち、それを発表できる生徒も多い。その生徒を中心に、活発に討論したり、学び合う集団となる可能性は高い。 ・家庭学習の習慣のない生徒もいる。言語に関する知識や授業のまとめなど宿題とすることによって、家庭学習の習慣をつけていきたい。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね真面目に授業に取り組んでいるが、自分の考えを積極的に表現し合うような姿勢は十分に育ってはいない。 ・一方で集中力の持続が難しい生徒がおり、重点的な指導が必要である。 ・高い意欲を持ち、力を伸ばしてきた生徒がいる一方で、基礎定着のため継続した指導が必要な生徒が少なくない。 ・漢字など言語に関する知識・理解・技能については特に不得意な生徒が多い。また、古典など特定の分野に強い苦手意識をもつ生徒もいる。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活では相対的に、気取らず、素直で、裏表のない生徒が多い。教員との信頼関係も良好である。 ・男子は、自分を表現して認めてもらいたいという傾向が強い。男子に比べ女子は、じっくりと考えられる生徒が多いが、目立つことを嫌い、発言などには消極的である。 ・学習に関して、自分で考えて課題を解決していこうという意欲が十分ではない生徒も多く、誰かが答えを言ってくれるのを待つという態度が見られる。家庭学習の習慣もあまりついていない。
<p>■指導についての課題</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な生徒を中心に、より多くの生徒が討論に参加できる学習集団にしていきたい。 ・家庭学習の習慣をつけるとともに、基礎学力の定着を図って行きたい。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の能力に大きな差があるため、基礎が十分に身に付いていない生徒に配慮し反復的継続的な指導を行う一方で、高い能力を持った生徒がさらに意欲的に学ぶことができるように対応していく必要がある。 ・言語事項など特定の分野に苦手意識をもつ生徒に十分な時間を割くことが難しい <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考える力をつけさせたいと思い、授業では読みや文章を書かせることに力を入れてきた。しかし、それに時間を取られ、語句に関する指導が十分でなかった。 ・生徒は、友だちの発言や文章から学ぶことも多い。しかし、文章を評価して返すだけ精一杯で、お互いの文章を読み合う時間を設ける事が少なかった。 ・生徒が深い読みができるようにしていくには、教員の丁寧な教材研究が必要である。

<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発言に適切な評価を行い、発言して良かったという思いを持たせたり、授業の中で個々の生徒に発言の機会をつくり、より多くの生徒が発言できる学習集団にする。 ・言語・文法・古典、授業のまとめについては、宿題を出すようにし、家庭学習の習慣をつけるとともに、学力の充実を図る。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科専用の座席表を活用し、授業アンケートで把握した生徒の要望と抱える課題を常に反映させながら適切な指導を行うよう努める。 ・授業内での個々の生徒の進度に応じ、発展的な学習のための課題を常に用意する。 ・計画的な指名により意見を述べる機会を増やすとともに、他の生徒の意見に耳を傾け、自らの考えを深められるよう配慮する。 ・授業の初めに本時の目標を提示して学習の目標を明確化し、本時のまとめで学習したことを自己評価する機会を設ける。 ・小テストを毎時行い、段階的に基礎学力を身につけられるよう配慮する。また、一定時間を家庭学習するよう、常に課題を与え、評価することを継続する。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読解指導をしながら、その文章に使われている語句を取り上げる機会を多くして、生徒の語彙を増やす。 ・文法については、取り立て指導をしたら、そこで得た知識をその後の読解指導で利用するように工夫し、理解を深め、覚えるようにする。 ・授業のなかで、語句に使える時間は限られているので、宿題を工夫したり、ノート指導によって生徒が自主的に学習できるようにしたい。また、辞書を各教室に置くようにして、日常生活でもわからないことがあったら、すぐに辞書を引く習慣をつける。 ・発言や作文については、生徒が自信をもって自分の考えを発表できるように評価方法を考える。 ・生徒の作文などについては、読む時間を設けるだけでなく、掲示も考える。
-------------------------	--

【 社会 】

<p>■生徒の状況</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子生徒を中心に、自分の気づきや疑問を素直に発言することができ、クラスメイトの意見も聞くことができる。 ・意見を発言できる一方で、知識を整理したり、関連性に気づいたりすることを苦手としている生徒も多く、興味関心が単発的な事象にとらわれてしまう面もある。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子を中心に全体的に明るく活発な生徒が多いものの、授業に対する姿勢は落ち着いており、真面目に学習に取り組むことができる。ただし、提出物に課題を抱える生徒も一部に見られる。 ・新しい知識（例：歴史的イベント・産業の特徴等）を学ぶ学習活動に対する姿勢は意欲的であり、よく努力することができる。しかし、習得した知識をもとに、因果関係等を考察する学習活動に対しては、今一歩積極的になりきれずにいる生徒が多い。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路決定を控えていることもあり、大部分の生徒がまじめに授業を受けている。 ・若干積極性に欠ける面も見られ、発問に対しては指名されれば答えるものの、自分から発表しようとする生徒は多くはない。
---------------	--

<p>■ 指導についての課題</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかった」「できた」という達成感をもたせるとともに、生徒がもつ興味・関心を授業内容に取り入れ、学習意欲をより高め継続して学習課題に対して追求できるようにする。 ・興味・関心を単発的なもので終わらせないために、随時学習内容を振り返らせながら、継続的に取り組む姿勢を身に付けさせる。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が持つ知的好奇心を大切にし、多種多様な興味・関心に応えられる授業内容を構築することが大切である。 ・生徒の学習目的が知識の習得で完結しないよう、考察・まとめ・発表などの学習活動を意図的に取り入れていく工夫が必要である。 ・提出物に課題がある生徒もいることから、家庭での学習習慣を確立させられるよう工夫していくことも必要である。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会科は暗記教科」と認識している生徒も多いため、これまで積み重ねてきた知識をもとに、適切に資料を選択し多面的、多角的に考察し、公正に判断する力を育成していく必要がある。 ・自分の考察、判断を適切に表現する能力を育てることが課題である。
<p>■ 授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究を一層充実させ、授業内容から派生するどのような生徒の疑問に対しても、適切な対応ができるよう準備を進める。 ・毎日の授業の流れを見直し、生徒の自由な発想を大切にする時間と、基礎的な知識についてしっかりと理解するための時間をバランスよく配置し、メリハリのある授業の実践に取り組む。 ・基礎・基本を確実に定着させるため、小テストを随時実施する。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材研究を一層充実させ、新しい知識を身につけたいという生徒の意欲に十分対応できる授業が実践できるよう努力する。 ・毎日の授業の流れを見直し、習得した知識を組み合わせながら結論を考察していくような授業の展開を構築する。その際、考察の過程を細分化して発問するなど、生徒が取り組みやすい学習課題を与えられるよう工夫していく。 ・小单元ごとの確認プリントを作成し、宿題として取り組ませることで、自学自習の習慣を身に付けさせるとともに、課題に対しては添削指導を行うことで、個に応じた学習指導の充実も図る。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習得した知識を活用して、社会的事象について具体的にとりあげ、それについて考えたことを説明させたり、自分の意見をまとめ、発表させたりする学習を取り入れる。 ・資料を読み取らせて解釈させたり、議論などを行って考えを深めさせる。日常の社会生活と関連づけながら、具体的事例を通して、政治や経済などについての見方や考え方の基礎が養えるようにする。

【 数 学 】

<p>■生徒の状況</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく、積極的に発言する生徒が多い。特に男子が活発で、理解できていないところがあれば、率先して質問をしていく。 ・全体的に学習意欲は高く、授業に集中している生徒が多い。基礎学力もしっかり身につけているが、若干応用力に不安がある。 ・答えを求めることはできても、式や過程を考えることが苦手な傾向が見られる。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女とも授業に真剣に取り組んでいる。明るく活発な生徒が多い。 ・意欲的に問題を解き、発表も積極的である。 ・基本的な計算問題については、数多くこなすことができるが、分数問題や応用問題については、苦手意識を持っている生徒が多い。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子・女子とも真剣に取り組んでいる。 ・授業に対し意欲的に取り組み、発表も積極的である。 ・基本的な計算力はしっかり身につけている生徒が多いが、応用問題については苦手意識を持っている生徒が多い。 ・既習項目の活用になると、戸惑う生徒が若干いる。
<p>■指導についての課題</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進度との兼ね合いの中で、生徒の興味・関心を引き出す工夫を行うと同時に、生徒への発問を大切にしていく。 ・全体の流れとの関係をふまえた、体系的な指導を行う。 ・個々の生徒の実態に応じた指導を行い、また課題がある部分を見抜き適切な支援を行う。 ・自ら考え学ぶ意欲を高めるために、数学的活動の楽しさが実感できるような授業を考案する。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力を高めるために、どれだけ反復練習ができるかが課題である。 ・個々の学力差に対応するために、個別指導や個々の学力にあった教材の提供がどれだけできるかが課題である。 ・自ら考え学ぶ意欲を高めるために、数学的活動の楽しさが実感できるような授業がどれだけできるかが課題である。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力を高めるために、どれだけ反復練習ができるかが課題である。 ・個々の学力差に対応するために、個別指導や個々の学力にあった教材の提供がどれだけできるかが課題である。 ・自ら考えて、自ら学ぶ意欲を高めるために、数学的活動の楽しさが実感できるような授業がどれだけできるかが課題である。 ・基礎学力向上のために、宿題や提出物を生徒に徹底して提出させることが課題である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導における生徒一人一人への支援を行う時間を確保する。 ・教材研究を深め、生徒の思考や興味関心を刺激するような授業を実践する。特にいろいろな考え方が発生するような教材を開発する。 ・授業規律をしっかりと、生徒が学習に集中できる環境をつくる。 ・導入・展開・まとめの流れを大切に授業を考案する。導入では、本時の学習内容を明確にし、まとめでは本時の振り返りを行うことで、何を学習したか理解できるようにする。 ・単元テスト等を行い、基礎学力の定着を図る。

<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間の中で、できるだけ演習時間を確保し計算などの反復練習を図る。 ・単元テスト等を行い、基礎学力の定着を図っていく。 ・定期的に宿題を出し、必ずチェックする。 ・生徒の反応をよりの確に把握し、丁寧に指導をし理解度を高めていく。 ・個々の学力に応じた難易度別の演習問題を作成し、各自の能力や意欲を引き出していく。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間の中で、できるだけ演習時間を確保し計算などの反復練習を図る。 ・単元テスト等を行い、基礎学力の定着を図っていく。 ・定期的に宿題を出し、必ずチェックする。 ・個々の学力に応じた難易度別の演習問題を作成し、各自の能力や意欲を引き出していく。 ・少人数授業を通して、一人一人の能力に応じた指導の充実を図る。 ・いろいろな考え方を引き出せるような教材を開発し、発表する機会を設けて言語活動の充実を図る。
-------------------------	---

【理 科】

<p>■生徒の状況</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中は全体的に前向きな生徒が多く、私語や忘れ物、提出物の状況なども良い。 ・実験・観察に対する取り組みでは、授業の反応はとても良く、驚きや感動の表情も多く見られる一方、実験の内容に興味関心を持っていない生徒もいる。 ・成績面では、全体的に良く努力し良い成績をおさめている。ただし、めざした成果があらわれない生徒が相当数いるのも事実である。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席・私語・忘れ物など、授業を受ける上での基本的なことができていない生徒がいる。 ・理科があまり好きではない、苦手意識を持った生徒がいる。 ・板書をノートに書くスピードに個人差が大きく、書く→説明を聞くといった授業の流れに遅れがちな生徒がいる。 ・簡単な演示実験や模型・写真などの提示に強い興味を示す生徒が多い。 ・意欲的に実験に取り組むことができる生徒が多い。 ・班ごとの実験・話し合いなどグループ学習に意欲的な姿勢の生徒が多い。 ・しっかりと宿題に取り組むことのできる生徒が多い。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子を中心として興味を持って取り組む姿勢がある。 ・女子の中には苦手意識がある者もあり、取り組みに課題がある。 ・授業へは非常に熱心に取り組む、発言する生徒も多い。 ・教え合い、学び合う姿勢があり、班活動や実験活動を協力して行う事が出来る。
<p>■指導についての課題</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察に興味を持てるかどうかはたいへん重要な点である。実験のプリント類から分析すると、観察をする際の関心の低さ・実験操作技能の低さなどは、各自の生活体験の少なさに関係している。 ・学習した事柄について、次の時間までは十分に理解がされているが、確実に定着している生徒は多くはない。特に、1分野の教材について、この傾向は端的に見られる。 ・理解させたい学習内容と授業時数の関係や、物理・化学・生物・地学の分野を適切な教材を用意しつつ、もれなく展開していくことに大きな課題がある。

<p>■ 指導についての課題</p>	<p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な授業規律を徹底させる。 ・ どんな生徒にもわかりやすく、実感をともなった説明をする。 ・ 板書する時間と説明する時間のメリハリをつける。 ・ 宿題を出して学習内容の定着をはかる。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男子と女子の興味・関心の度合いに差があり、取り組みの姿勢にも違いが見られる。この差をいかにして埋めながら女子の理解度を上げるかが課題である。 ・ 基礎、基本の定着度合いが低く、家庭学習の欠如が問題である。
<p>■ 授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業においては、各自の実体験を補い、興味関心を高める教材や授業の展開が必要と思われる。 ・ 家庭に対しても、単なる家庭学習や学習塾に頼るのではなく、自然の物事や自然の現象に興味と関心を持たせ、感動や新たな疑問を持つ事の大切さに理解を求めていく。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 忘れ物チェックやチャイム着席点検を定期的実施する。 ・ チャイムで授業を始めることと、生徒に持参させた持ち物は、授業で1回は使うよう計画する。 ・ 板書する時間と説明をする時間のメリハリをつけるために、板書中にノートを書き写すのではなく、板書と説明が終わってから書き写す時間を取るようにする。 ・ 実感をともなった理解をはかるために、グループごとの実験・演示実験・図や写真の提示など、色々な形態の教材を準備する。 ・ 実験結果に基づいた考察など、グループでの話し合い活動を充実させる。 ・ ワークやプリントを活用して、授業で学習した内容の宿題を出す。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への興味関心は、男子と女子では違いがあり、それを理解しながら授業へ臨みたい。男子は作業や実験が特に好きだが、女子はノートを丁寧にまとめたり、色分けをしたりする事に達成感を持つ場合が多い。授業プリントをより充実したものに改善していくことが大切と考えている。 ・ 理科室での授業は男女別の班を作って取り組むことで、女子だけでもやらなければならない状況を作り、理解度の深化を図っている。 ・ 授業の冒頭には必ず前回の授業の復習を入れ、ここまでの単元の流れや、本日の授業のねらいを確認するようにしている。繰り返し学習させ、重要語句などを丁寧に説明することで、暗記すべきものをはっきりと明示することがねらいである。 ・ 演習を班ごとの教え合い、学び合いの学習形態をとることで、理解したものは教える立場でさらに定着し、クラスメイトに教えられることで男女差や理解度の差を埋められると考えている。 ・ 予習をよりも復習にしっかり取り組むことを指導している。授業内で新鮮な発見や驚きを生徒自らの体験として味わい、科学ならではの体験から学ぶことを意識させたい。さらに家庭での学習をその感動から、記憶にとどまるように課題を随時取り入れながら家庭学習の定着を図りたい。 ・ 1・2学年の復習に計画的に取り組み、授業内でも扱う。また定期テストのテスト範囲としても取り扱う。これによりさらに家庭での学習時間を確保する必要が生まれ、習慣化することをねらいとしたい。

【 音 楽 】

<p>■生徒の状況</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体として落ち着いて授業に取り組んでいる生徒が多い。 ・歌うことが好きな生徒が多く、意欲的に授業に取り組んでいる。 ・リコーダーの演奏に苦手意識をもっている生徒も若干見られる。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子を中心に明るく活発な生徒が多い ・歌うことが好きな生徒が多い一方で、声を出すことが苦手な生徒も見られる。 ・一部に集中力に欠ける生徒が見られる。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体として落ち着いて授業に取り組んでいる生徒が多い ・歌うことが好きな生徒が多く、意欲的に授業に取り組んでいる生徒が多いが、一部に歌うことが苦手な生徒や集中力に欠ける生徒が見られる。 ・リコーダーの演奏に苦手意識をもっている生徒が見られる。
<p>■指導についての課題</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現する時間を多く設定し、実感として「わかる授業」をする。 ・基礎的な技能を身につけられるようにする。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中して指示を聞かせる。 ・表現する時間を多く設定し、表現する喜びを感じ取らせる。 ・基礎的な技能を身につけ、表現を工夫できるようにする。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中して指示を聞かせる。 ・表現する時間を多く設定し、充実感や達成感を味わわせる。 ・基礎的な技能を身につけ、表現を工夫できるようにする。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の始まりに「本時の目標」を明確にし、授業に見通しをもたせ集中して取り組ませる。 ・合唱では自分の声だけでなく周りの声に耳を傾けることで、ハーモニーを感じ取らせる。 ・リコーダーについては短いフレーズを一人一人演奏させ、能力に応じた個別指導を行う。 ・音楽の基礎的能力を高めるためにソルフェージュ（音符を読む、音符を書く）を授業の中に取り入れる。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の始まりに「本時の目標」を明確にし、授業に見通しをもたせ集中して取り組ませる。 ・合唱を通して、人と音との係わりを学ばせる。また自分の声だけでなく周りの声に耳を傾けることで、ハーモニーを感じ取らせる。 ・音楽の基礎的能力を高めるためソルフェージュを授業の中に取り入れる。 ・集中に欠ける生徒には個別に声かけをし、励ましながら活動を促す。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の始まりに「本時の目標」を明確にし、授業に見通しをもたせ集中して取り組ませる。 ・合唱では3年間の集大成として大曲に取り組ませ、合唱の醍醐味を味わわせると共に充実感や達成感を感じ取らせる。

<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことが苦手な生徒や集中に欠ける生徒には個別に声かけをし、励ましながら活動を促す。 ・リコーダーについては一人一人演奏させ、能力に応じた個別指導を行う。 ・音楽の基礎的能力を高めるためソルフェージュを授業の中に取り入れる。 ・一人一人に集中して取り組ませるため、小さな課題を与え一人一人チェックし、指導、評価を繰り返すことで定着を図る。
-------------------------	---

【 美術 】

<p>■生徒の状況</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体として落ち着いて授業に取り組んでいる生徒が多い。 ・制作することが好きな生徒が多く、意欲的に授業に取り組んでいる。 ・互いの作品を鑑賞しあい、それぞれの良さを素直に感じ取り、自分の作品作りに生かそうとすることが出来るが、それを生かせる技能はまだ十分ではない。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的には落ち着いて制作することができるが、一部活発な生徒もいる。 ・作品を完成させようとする意欲はあるものの、追求していく意欲が十分ではない生徒も多くいる。 ・互いの作品の鑑賞はするものの、自分の作品に活かす力が十分でない。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直で、作品制作に集中し、意欲を持って取り組める生徒が多い。 ・互いの作品を鑑賞しあい、それぞれの良さを感じ取り自分の作品作りに活かそうとすることが出来る。 ・作品をより美しく完成させようとする意欲は十分育っている。 ・一部に、自分の作品に自信を持ってない生徒もいる。
<p>■指導についての課題</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入段階で最後までの見通しをつけ、計画的に作業を進められるようにする。 ・基礎的な技能を身につけられるようにする。 ・自分の作品を尊重できる姿勢を養い、作品をより美しく仕上げていく楽しさや、完成する達成感を感じる事が出来るような題材を準備する。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時課題をしっかり理解できるよう指示を聞かせる。 ・参考書などを見る時間を作り、そこからアイデアふくらませることが出来るようにする。 ・基礎的な技能を身につけ、自らの表現の幅を広げられる事が出来るようにする。 ・人の作品からも発想できるよう、授業の中でいくつか生徒作品を発表する。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じっくりと制作していく課題により、作品を通して自分と向き合えるような題材を準備する。 ・その上で、自ら工夫して表現出来るようにする。 ・自分の作品を尊重できる姿勢を養い、作品をより美しく仕上げていく楽しさや完成する達成感を感じる事が出来るようにする。

<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の始まりに「本時の目標」を明確にし、授業に見通しをもたせ集中して取り組ませる。 ・平面作品ではそれぞれの目的を明確にし、最終的な形をしっかりと想像できるよう進めていく。 ・作品制作の終わりに自己評価と、相互評価を行い、鑑賞能力をより高めていく。 ・基礎的な技能を身につけるため、主な課題の前の練習として小さな課題に取り組ませて基礎力を高めていく。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒作品の掲示や発表により意欲を高める工夫をする。 ・集中して取り組むことができない生徒には、個別に声かけをし、作品の完成が遅れないようにしていく。 ・主な課題の前に基礎的な課題に取り組むことにより、基礎力を高めていく。 ・作品制作の終わりに自己評価と、相互評価を多く取るなど、人の作品から良さを感じ取る能力をより高めていく。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自信を持って、より良いものを制作していけるよう、2年間で積み重ねてきたものを生かせる課題を準備し、取り組む。 ・生徒作品の掲示や発表により意欲を高める工夫をする。 ・一つの作品にじっくり向き合い、最後まで自信を持って取り組んでいけるよう、個別に声かけをしていく。
-------------------------	--

【 保健体育 】

<p>■生徒の状況</p>	<p>《第1学年・男子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく活発な生徒が多い。 ・体を動かすことが好きな生徒が多く、意欲的に授業に取り組む生徒が多いが、集中力に欠け指示を聞いていない生徒も若干見られる。 ・運動能力的にかなりの個人差が見られ、苦手意識を持っている生徒も見られる。 <p>《第1学年・女子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活発な生徒が多い。運動が苦手な生徒もいるが、一生懸命に取り組むことができる。 ・意欲に個人差があり、活動に取りかかるまで時間がかかることがある。 <p>《第2学年・男子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体として意欲的に取り組む生徒が多いが、苦手意識もあり消極的な生徒も見られる。 ・運動の得意な生徒が苦手な生徒へアドバイスするなど、互いに高め合おうとする意識はあまり高くない。 ・運動が得意であるが、興味のない運動に対しては消極的になってしまう生徒が若干見られる。 <p>《第2学年・女子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動好きな生徒が多く、技能に差があるものの意欲的に取り組むことができる。 ・種目によって学習意欲や取り組み方に差が出ることもある。 <p>《第3学年・男子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きな生徒が多く、意欲的に取り組むことができる。 ・自らの課題を意識し取り組める生徒が多く、学習カードに反省や課題を記入できる生徒も多い。
---------------	---

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動への苦手意識はあるが運動を楽しもうとする意識が見られ意欲的である。 ・服装面で指示を出さないときちんとできない生徒も若干見られる。 <p>《第3学年・女子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動好きな生徒多く、積極的に取り組むことができる。 ・経験者を中心に協力し、教え合って活動することができる。
<p>■指導についての課題</p>	<p>《第1学年・男子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中して説明を聞かせる。 ・ねらいを明確にし、個々の課題を明らかにして授業を行う。 ・学習カードの記入内容の充実。 <p>《第1学年・女子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組むことができるようにする。 ・基礎体力をつける。 ・運動量の確保。 <p>《第2学年・男子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にし、個々の生徒が意欲的に取り組めるようにする。 ・互いにアドバイスができる場面を設定する。 ・学習カードの記入内容において、自らの課題や授業の感想を十分に記入できない生徒が多いため、記入内容の充実を図る。 <p>《第2学年・女子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの種目に対しても意欲的に取り組むことができるようにする。 ・個に応じた指導の充実。 <p>《第3学年・男子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底。 ・ねらいを明確にし、個々の課題を設定した授業を行う。 ・学習カード記入内容の充実。 <p>《第3学年・女子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導の充実と技能水準の向上。 ・勝敗の喜びだけでなく、他の楽しさを味わわせる。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>《第1学年・男子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に見通しをもたせ、きちんとした姿勢で説明を聞き集中して取り組ませる。 ・ねらいを明確にし、課題を明らかにして授業に取り組ませる。 ・学習カードの良い記入例を発表し、全体の意識を高めていく。 <p>《第1学年・女子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを明示し、できるようになる楽しさを味わわせる。また、積極的に声かけをして活気ある雰囲気を作る。 ・補強運動を充実させ、基礎体力を定着させる。 ・授業規律を徹底し、素早く行動できるようにする。そして、運動時間を確保していく。 <p>《第2学年・男子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを学習カードに記入できるようにし、毎時間意識して取り組ませる。 ・グループ学習等を取り入れ、お互いにアドバイができる場面を設定する。 ・学習カードの良い記入例を発表し、全体の意識を高めていく。

<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>《第2学年・女子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できる・できないだけでなく、できるようになるまでの過程や仲間と協力することの楽しさにも目を向けさせていく。 ・基本的技能の習得ができたなら、個の技能に応じた新たな課題を与えていく。 <p>《第3学年・男子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底を図るため、集中して話を聞かせる。また、体育係にも意識させ声かけを行わせる。 ・学習カードに本時のねらいを記入させ、毎時間のねらい・課題を意識して取り組ませる。 ・学習カードの良い記入例を発表し、充実した記入内容にできるように意識を高めていく。 <p>《第3学年・女子》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的技能の習得ができたなら、個に応じた新たな課題を与えていき、レベルアップを図る。
-------------------------	--

【 技術・家庭 】

<p>■生徒の状況</p>	<p>《第1学年・技術》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子を中心に元気がよく、積極的な発言が多い。 ・グループ内で話し合い作品を工夫することができる。 ・意欲的に作業に取り組む姿勢がよくみられるが、思い通りにできないとあきらめてしまう生徒もいる。 ・また、自分の作業に集中するのは良いが、周りと協力しながら行なうことができない生徒もいる。 <p>《第1学年・家庭》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題への取り組み方は、関心を持って自発的に発言する生徒、あまり発言はしないが課題をこなす生徒、ゆっくりだが課題をこなす生徒など様々である。 ・どの生徒も、興味のある調理実習では、大半の班は協力しあっていたがあまり協力できなかった班もあった。 <p>《第2学年・技術》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展的な質問をして、作業に活かし工夫できる。 ・意欲的に作業する生徒と、集中力に欠け指示を聞いていない生徒の作業効率に差がある。 ・男女ともに協力し合い作業を進めることができる。 <p>《第2学年・家庭》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部集中しない生徒がいるが、関心を持って自発的に発言する生徒、発言はしないが課題をこなす生徒、ゆっくりだが課題をこなす生徒など様々である ・被服実習では自分たちで考えたり教えあったりすることができるようになってきている、 <p>《第3学年・技術》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて授業に臨むことができ、関心・興味のあることに積極的に取り組むことができる。 ・協力し合ったり、話し合ったり工夫がみられるが、盛り上がりすぎて作業から逸れたりしてしまう場合がある。 ・工具や工作機械などを安全に使うことができる
---------------	---

<p>■生徒の状況</p>	<p>《第3学年・家庭》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの生徒の課題への取り組み方はよい。時と場合によって集中できない生徒もいる。 ・提出物は内容のよい物にするために、時間をかけて課題に取り組み、少し遅れて提出する傾向が見られる。 ・実習では工夫したり丁寧に作業をする生徒、一生懸命する生徒、作業に取りかかるのに時間がかかる生徒、など取り組み方はさまざまである。 ・前向きに取り組んで学習意欲のある生徒が比較的多い。
<p>■指導についての課題</p>	<p>《第1学年・技術》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業が遅れている生徒に対しての支援と、進んでいる生徒に対しての発展的支援を大切にする。 ・工具や工作機械など、正しい使用方法や注意を生徒自身に考えさせ、安全について配慮し作業が行なえるようにする。 ・消極的な生徒が発言しやすい発問の工夫が必要である。 <p>《第1学年・家庭》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の課題の進捗をみながら、目標をはっきりさせて、生徒自身が先の見通しをもちながら学習できるようにすることを大切にする。 ・被服・調理実習では、安全面・衛生面を考えて準備を万全にする。また生徒自身が安全面・衛生面など自覚して行動できるように対応することを重視する。 ・被服・調理実習の授業が、充実するように生徒自身が物の準備ができようようにすることを大切にする。 <p>《第2学年・技術》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業が遅れている生徒に対しての支援と、進んでいる生徒に対しての発展的支援を大切にする。 ・工具や工作機械など、正しい使用方法や注意を生徒自身に考えさせ、安全について配慮し作業が行なえるようにする。 ・消極的な生徒が発言しやすい発問の工夫が必要である。 <p>《第2学年・家庭》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確にながら生徒自身が先を見通して取り組めるようにすることを大切にする ・実習では、安全面・衛生面を考えて準備を万全にする。また生徒自身が自覚して安全面・衛生面を考えて行動できるようにすることを重視する。 ・実習の準備と片付けを安全に注意し皆で協力して行うことができるようにする <p>《第3学年・技術》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業が遅れている生徒に対しての支援と、進んでいる生徒に対しての発展的支援を大切にする。 ・工具や工作機械など、正しい使用方法や注意を生徒自身に考えさせ、安全について配慮し作業が行なえるようにする。 ・消極的な生徒が発言しやすい発問の工夫が必要である。 <p>《第3学年・家庭》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識と実習とのバランスをとりながら、学習意欲が持続できるように授業内容を充実させる。 ・基礎的な知識が定着するように教材を用意したり、授業にめりはりをつけ興味をもって学習できるように準備をする。 ・実習では作品が手順よく完成できるように対処する。また、実践面や技術面での質問などに対応できるようにする。

■授業改善に
向けての具体的な方策

《第1学年・技術》

- ・作業後の自己評価で振り返りをしっかり行い、次回製作の意欲や目標を持たせるようにする。
- ・生徒がつまづきそうな作業に対して演示を行い、意欲を欠かさず、安全に作業ができるようにする。
- ・生徒からの質問に対し、正しい情報で答えられるよう教材研究に取り組む。

《第1学年・家庭》

- ・被服実習では技術的な向上を目指して課題の進捗を考慮しながら、実際にどのようにしたらよいか手本を示す。
- ・被服実習では生徒自身が先の見通しを立て作業ができるように、作業内容など記入できる進捗カードをつくり関心や意欲が持てるようにする。
- ・基礎的な知識では教材による学習やノートにまとめたりすることで知識を定着させる。
- ・被服実習や調理実習をより充実させるために必要なものを忘れないようにする習慣を身につけさせる。

《第2学年・技術》

- ・作業後の自己評価で振り返りをしっかり行い、次回製作の意欲や目標を持たせる。
- ・生徒がつまづきそうな作業に対して演示を行い、意欲を欠かさずに作業ができるようにする。
- ・生徒からの質問に対し、正しい情報で答えられるよう教材研究に取り組む。

《第2学年・家庭》

- ・必要に応じて 演示してわかりやすく説明する。
- ・実習後や授業後 感想カードを書いて振り返り関心・意欲を高めるようにする。
- ・生徒からの質問に対応できるように教材研究を行う

《第3学年・技術》

- ・生徒からの質問に対し、正しい情報で答えられるよう教材研究に取り組む。
- ・作業後の自己評価で振り返りをしっかり行い、次回製作の意欲や目標を持たせる。
- ・生徒がつまづきそうな作業に対して演示を行い、意欲を欠かさずに作業ができるようにする。

《第3学年・家庭》

- ・基礎的な知識を定着させるためにプリントや教材を用意して、生徒自身がじっくり調べたり授業の中で学んだことをまとめたりする経過を大切に授業内容を充実させる。
- ・作品を完成させるために、生徒自身が進捗チェックカードなどを使って計画、製作、完成という一連の流れの中で積極的な取り組みができるように対応する。
- ・自分らしさ・個性が出るような作品になるように質問などに対応できるように準備をする。

【 外国語 】

<p>■生徒の状況</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まじめな学習態度であるが、入学段階より英語の習熟の差が大きい。 ・声を出して読んだり、ジェスチャーを使って言うなどの表現を好まない傾向にある。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自学の習慣のある生徒とない生徒の差が大きく、課題を与え、提出するまで声かけをしないと提出状況が悪くなる。 ・授業への取り組みは概ね良好で、ペアワークやグループワークでも積極的に行う。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、意欲的に授業に取り組んでいる。3年生になると、習熟度に差が出てくることは当然あるが、苦手な子も、授業の中で、自分ができることを見つけ、諦めずに継続的に取り組もうとする姿勢が見られてきた。ただ提出物などの点で、まだ曖昧になってしまう生徒がいるのが残念であり、これからの課題である。
<p>■指導についての課題</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読を中心として、表現の能力の基礎を養う。 ・家庭学習の習慣化。 ・文字をきちんと丁寧に書く。 ・3時間を1時間と2時間に分けているため、進度が遅れがちなことと定着に時間がかかること。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階も考慮して、知的好奇心を刺激するような指導の工夫。 ・提出物がだせない生徒に対しての支援の方法。 ・習熟から応用への指導の工夫。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じた授業や教材の工夫・提供。 ・提出物がだせない生徒に対しての支援の方法。 ・受験に対応できる応用問題の導入。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>《第1学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読を始めとして、英語を声に出して言う機会を多く設ける。ペアワークなど友達と協力して活動することを通して、コミュニケーションをする楽しさを味わわせるようにする。 ・定期的に課題を出すことで、家庭学習の習慣をつけるとともに、文字を書くことにたいする習熟の様子を把握する。 ・基礎的・基本的な内容は、何度も反復練習し定着をはかる。 <p>《第2学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味・関心をもって取り組めるように、題材の内容に迫ったり規則を発見するような場面をもうけたりする。 ・提出物が出せない生徒に対しては、放課後の時間などを利用して支援する。 ・習熟した内容をALTの前で応用して表現したり、場面に即して表現したりする機会を計画的に設け、発展練習ができるようにする。 <p>《第3学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、今までの（1年～3年）文法事項の確認ができる場面（例えば、授業の初めの会話練習など）を作り、履修事項の定着を図る。 ・生徒が興味・関心をもって取り組めるような教材の内容、個々の習熟度に合った問題の提供を心がける。

<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業の最後に、振り返りの時間（時には宿題）を設け、生徒一人一人の理解の確認をする。 ・定期的に、小テストや提出物のチェックをし、生徒自身が自分でもしっかり状況を把握できるようにする。
-------------------------	---

【 総合的な学習の時間 】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも、明るく活発で学校生活に対して前向きな姿勢でのぞむことができる生徒が多く、授業や行事などの諸活動においても、意欲的に取り組んでいる。 ・与えられた課題や指示された事柄に対しては、適確にこなす力を備えているが、自分たちで課題を発見し解決に向けての手だてを考える力を身につけている生徒の割合は、そう多いとは言い難い。 ・また、自分なりに考察したり分析したりすることができても、それをわかりやすく表現することを苦手としている生徒も一部に見受けられる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題設定」→「調べ学習」→「分析・考察」→「まとめと発表」という一般的な学習活動の流れの中で、それぞれの学習活動に必要なスキルの向上につながる取り組みを取り入れていくことが大切である。 ・各学年の発達段階を踏まえながら、「調べかた」「まとめかた」「表現のしかた」などについて、各学習課題を関連づけながら身に付けさせていくことが重要である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も全校テーマとして『自立と共生』を設定し、各学年ごとに学年テーマと指導の重点を設定している。 ・第1学年では、福祉体験や地域調査を題材としながら「学び方を学ぶ」活動に重点を置いている。 ・第2学年では、農業体験や職場体験など体験的な活動を重視することで、より広い視野を身につけられる取り組みに力を入れている。 ・第3学年では、日本の伝統文化や現代社会の諸問題について、これまでに蓄積した力を生かしながら学習に取り組むとともに、それらの活動を通じて自分自身を見つめ直す視点を育てている。 ・各学年とも、学習課題に対する取り組みにおいて、教科の学習内容との関連性を強く持たせるよう意識し、習得した「調べかた」や「表現のしかた」等に関する力が、教科の学習を深めることにつなげられるよう工夫している。

【 その他（言語活動の充実等） 】

<ul style="list-style-type: none"> ・国語科で習得した力を土台にしながら、各教科の授業においても、考えたこと・感じたことを様々な方法で表現する活動や、学んだことを的確にまとめる活動、自分の考えを論理的に説明する活動を積極的に取り入れていく。 ・授業だけではなく、学校生活の様々な場面（学級活動・生徒会活動等）でも適切な言語環境を整えていくことが大切である。
